

～せとか、紅まどんな等中晩柑生産のトップランナー～  
野本 貢さん（松山市）

名誉農業指導士 1951年生まれ



☆経営概況☆

経営形態 家族経営

経営品目 せとか60a、紅まどんな40a、不知火21a、甘平21a、伊予柑238a  
（露地338a、施設42a、計380a）

労働力 本人、妻、長男の3人（パート収穫時7名 短期研修生2名）

その他 かんきつ3.8haを栽培するとともに、研修生を受け入れ、後継者育成にも熱心に取り組んでいます。

☆ここがポイント☆

■高級中晩柑を施設で栽培し高所得！

宮内伊予柑が昭和45年前後からブームになり、平成3年のピーク時には4haの伊予柑で2千万円前後の売上げがありました。その後、品種は不知火へと替わり、現在は紅まどんな・せとか・甘平と品種が加わって、さらにいずれも施設栽培をすると、より高い単価で売れる時代で、自分はそれに併せて改植や施設整備等に取り組み、高所得を実現しています。

■最新の栽培技術や新品種を積極的に導入！

JA や県の試験場等と連携しながら、最新の栽培技術や新品種について積極的に現地試験やほ場調査に協力し、自分の地域にあった栽培技術や新品種の導入等を積極的に進めています。

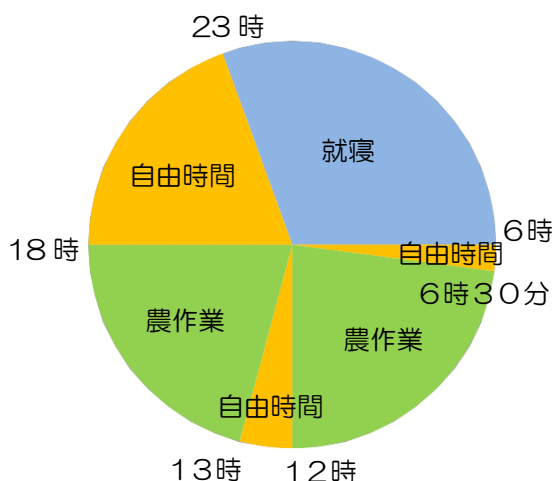


左：息子さん 右：研修生



紅まどんなの収穫状況

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

地域の共選役員の仲間とは、農閑期や雨天時に農業談義を重ねていて、年に一度の先進地の視察研修や誕生会等を通じて、家族ぐるみの付き合いをしています。

また、長年受け入れてきた研修生とは、年に一度交流会を持っていて、地域の後継者とともに30名ほどが集まり、農業への熱い想いに花を咲かせています。

趣味として今はまっているのは、ラーメンの食べ歩きに出かけることで、気の合う仲間と県内各地へ足を運んで楽しんでいます。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】	← 栽培管理・収穫・出荷（常に何らかの作業をしています） →					
【普通期】	← 栽培管理 →				← 休日 →	



左：農大からの研修生受け入れ  
右：紅まどんな施設

☆これからの夢や目指すもの☆

■若い担い手を育てたい！

研修生を積極的に受け入れて、次世代の担い手を育成しています。マンツーマンで惜しみなく自分の技術を伝えることは、自分の学びにもなり、よい刺激にもなっているので、これからも続けていきたいと思えます。

☆メッセージ☆

■これからの農家は自分で販売する力を身につけよう！

今までは、良いものを作りさえすれば農協が高く売ってくれていました。しかし、これからはどうなるかわかりません。当然、農協には、もっともっと売る努力をして欲しいですが、農家も自分で販売する力を身につけなければ生き残れない時代が来ていると感じています。